Schmersal Information
国際機械安全関連情報

BG の活動報告

No.3-55/2003.4/Ka-Ni

ドイツ職業保険組合（BG）のプレスリリースから最近の活動報告の一部を紹介したい。

1）労働災害数の減少

BG の 2002 年度報告によると、ドイツにおける労災数は、ここ数年間は減少傾向にあり、労働災害*は、2002 年になって初めて 100 万件を下回り、昨年比 7%減の 98 万 5 千弱となった。ドイツ職業保険組合連盟（HVBG）会長ヨアヒム・ブロイアー博士によると、遂に到達すべき域を突破した観であり、労災の減少傾向が確定であり、BG の支援の下ドイツにおける企業の予防方策の成果と言える。

- 重傷・死亡件数：先々にまで健康に支障をきたす重傷件数は、昨年比 3.6%減の 2 万 600 件数、死亡件数は、昨年比 4.6%減の 774 件数となった。
- 職業病：同様にここ数年減少傾向であり、疑いのあるケースは、昨年比 5%減の 63,000 件となり、内 24,000 件が疑いの濃いものとされ、割合として昨年 35.4%が、36.7%に増えた。また、職業病の届出は、16,131 件であり、内 5,117 件が、継続して年金支払を受けている。一方、条件を満たさず法的には認められなかった職業病は、7,739 件であり、特に皮膚病が目立つため BG による医学的リハビリ・予防措置への助言が行われた。死亡件数は、約半数がアスベスト、約 100 件が昨年追加補償された鉱業関連気管支炎が、起因で総計昨年比 12%増の 2,005 件である。

*労働災害：ドイツでは、非保険者が死亡または３日以上休業するに至った業務・通勤災害の場合、報告が義務付けられている。

2）取扱説明書の扱い

難解なドイツの取扱説明書は、配線・機器が不具合である場合、健康を害し、場合により生死に関わることが、ドイツ職業保険組合・労働安全研究所（BGIA）とボン・ライン・ジーク大学技術ジャーナリズム専攻との共同研究で明らかになった。今日の技術社会は、ますます複雑で、容易には理解し難い。故に、産業ロボット等潜在的危険を含む機器の取扱説明書は、容易に読まれなければならない。BGIA 同プロジェクト責任者ディトマー・ライネルト博士によると、ドイツにおける取扱説明書は、漫画等で解り易く説明する隣国フランスとは異なり、大抵単調である。技術が複雑になればなる程、使用者が理解し難くなるため、クロスワードパズル・模範例のイラスト等で説明し、アニメーション等短編映画による事前の情報供給も一案である。製造複合システムにおける事故あるいは事故未遂調査によると、安全技術分野においても、50 ページ以上あるハンドブックは、使用前に一通り読まれることは稀との結果である。故に、推理小説調に、緊迫しながらもメリハリがあり読み応えのあるよう書かれることも薦められる。更に、特に故障時に人命を損ねかねない機器には、理解の突破口として、最重要事項が一目で解るよう標示等の貼付が必要である。また、複合機では、視覚教材、索引、注釈集、インデックス、目的別見出等従来通りの方法以外に、使用者が必要な情報実例を検索出来る制御モードソフトウェアが必要とされる。

3）社会保険学科開設

ドイツ職業保険組合連盟（HVBG）とボン・ライン・ジーク大学は、HVBG の財政支援の下、ハンネフの BG 学術協会大学部門で、新学科を開設し、2003 年 11 月 3 日より、当初約 60 名の大学生が、傷害保険に重点を置いた社会保険学学士課程を独自の専門領域として開始する。研究内容は、行政学、経済学の他、薬学および法学も行われ、実地に即した演習にも力を入れる。新しく採用される教授陣は、教える傍ら、ケースマネージメント、社会法等自身の専門分野研究も行う。HVBG は、教育分野縮小・廃止が相次ぐ中、教育・研究への将来を見据えた投資、損害保険分野を中心とした社会保険システムの将来を担う頭脳集団の創出、そうした専門家を必要とする雇用、学術都市ボンの知名度へ貢献している。

出所：HVBG-Newsletter Maerz 2003
本件、お問合せは SCHMERSAL 迄。

©エラン・シュメアザール日本支社　〒167-0054　東京都杉並区松庵 3-39-8　Tel. 03-3247-0519　Fax. 03-3247-0537
URL:http://www.elanjp.com